



# 水辺だより

1993. 6月

街の中に半袖の人が目につくようになり、衣替えの季節なんだなあということを感じます。家の裏のニセアカシアの林も5月終りの1週間くらいで、あっという間に緑に衣替えをしました。その様はもう見事で、ダイナミックに刻々と緑を濃くしていきました。今は、会社から帰ってきて、車のドアを開けたとたん、甘い花の香りに包まれてしまいます。

今年は、なぜか海岸の植物に目がひきつけられています。ハマゴウ、ハマヒルガオ、マンテマetc. 去年は、ほとんど気づかなかったのに…（実は海ばかり見てた）。もう、その豊富なことに驚かされてしまいます。海の水辺の散策もまたよいですね。

## §インフォメーション§§§

### 【その1 自然環境復元シンポジウムせまる】

前にもお知らせした自然環境復元シンポジウムが、いよいよ迫ってきました。今回は「自然保護」という雑誌にも掲載され、北海道や四国、九州など全国から問い合わせがあります。平日ですが、全国からいろいろな方、各分野の専門家がいらっしゃいますので、この機会を逃さずご参加願えればと思います。水辺の会の会員は参加費1,000円です。

### 【その2 全国水環境交流会発足会開かれる】

東京にある地域交流センターという組織が中心となって、全国水環境交流会が発足することになり、この水辺の会もお仲間に入りました。その発足会の案内を同封しましたので、参加希望の方は申込葉書で各自お申込下さい。これからが楽しみなおもしろい動きですね。

### 【その3 会員の白根の高橋さんがアトリエ展開催】

詳細は別ページにて。

## 長野シンポジウム体験記

4月24日・25日に長野市で長野県水辺環境保全研究会主催のシンポジウム「水辺と生物」が開かれました。実は新潟の水辺を考える会も主催に名を連ねているため、事務局を中心に10名程度が参加しました。

長野市は桜がちょうど見頃で、新潟よりちょっと遅い車中花見をしながら会場へとむかいました。そこでまず私たちは、会場の立派さに驚き、シンポジウムの看板の立派さに驚いたのであります（私だけかもしれませんが）。

当日は200人程の人が集り、新潟の水辺の会を代表して大熊会長、日本白鳥の会の本田清さん、津南に住んでいる井上信夫さんらを含む、3つの基調講演と、4つの報告がなされました。報告の内容はタイトルにもなっているように生物関係の報告が多く、長野の会の特徴を十分反映したものでした。長野の会は調査研究機関であるために、それぞれの分野の専門家がが多く、特に動物・昆虫等の話になると目をキラキラさせてしまう人がたくさんいるのです。

パネルディスカッションでは、いろいろな提案がなされました。その中で、水辺にペットを捨てる人が非常に多くて困る、今の若い母親はどうしようもない、子供よりも親の教育が必要だetc.といった意見が出されました。それはそうかもしれませんが、その時、私はなんかもっと根本的なところが間違っているのではないかという印象を強く感じていました。ペットという言い方自体おかしくはないか？

また、「水辺の昆虫採集罪悪論」というタイトルで、長野の会の浜栄一さんが、それはもう少年のように目を輝かせながら、昆虫採集のお話を実況中継しながらに語ってくれました（当然罪悪論に対する反論です）。最近の子供たちは昆虫採集をしなくなったとか、昆虫採集が罪悪だという議論があって、禁止しているところもあるそうだとか。確かに程度と対象とする種の問題はありますが、昆虫採集は子供が自然に接する手段の一つであると思います。子供は本来残酷な部分を少なからず持っています。そういえばわたしも、ミミズを切って遊んだり（切ってもまだ動いていることに感動する）、おもちゃの注射器やピンクや緑色の液体の入っている昆虫採集セット（憶えがある人もいるのではないのでしょうか）を買ってもらって、とても喜んでいた少女でありました。

鮭の稚魚の放流の話でも、信濃川にダムがあるために戻ってくるのはむずかしいという事実を子供たちにきちんと告げずに、長野のある小学校では鮭の稚魚のりっ

ばな飼育施設を持っているところもあるとかで、完全に物事が逆転してなあという印象を受けました。

その他、井上さんが持ってきた昔から使われている川漁の漁具が、道具として本当に美しいものでありました。今では、それを造れる人がほとんどいないとのこと。生活工芸がまた見直されてきてはいますが、生活工芸という名の通り、それが名も無い人によって作られ、生活の一部として使われていた時代に生きてきた〈もの〉の確かさ・豊かさには、現代の〈もの〉は、なかなか対抗できないような気がします（もちろん、よいものもたくさんありますが）。現代は生活工芸品として売られているものほど、手間がかかっているために高価になり、なんか日常ではもったいなくて使えないものとなってしまうんですよね（気にしないで使えばいいんですが）。やっぱり、現代はある部分非常に貧しくなっていることを実感しますなあ。

25日の現地見学会は、桃の花咲く犀川、千曲川沿いの川辺を40～50人くらいがぞろぞろ歩きました。長野の会の特徴がいかに発揮され、昆虫、植物、鳥、地質、河川（これは大熊先生）などのスペシャリストが同行する分野別解説付でした（ジャンルジャポニカのような）。午後から雨に降られたために、目標地点よりも手前で解散しました（いっぱい歩いて、けっこう疲れていたのも実はホッとしていたという話もある）。

川辺は菜の花と果樹の花が満開で、桃源郷さながらの風景が広がり、とても気持ちの良いものでした。天気あまりよくなかったのが残念でしたが、新潟とは違う水辺をウォッチングできました。

それから、特筆すべきがわたしたちが宿泊した藤屋旅館です。長野の会の方がとってくれた善光寺のすぐ下にある由緒ある旅館で、昔のお偉いさんが大勢泊られたところでした。その応接室が立派で、なんとそこで私たちは懇親会後の二次会をしてしまったのであります。時代が違えば、わたしのようなしもじもの者は絶対泊られない宿なのでしょう（しかし、現在の宿泊料金は結構安い）。朝食もいけました。オススメです、さすがに人気があるため、なかなか予約できないそうです。

そんなこんなで、わたしたちは善光寺前の有名な七味唐がらしを買って、帰路についたのであります。香りたつ、唐がらしでした。（文責：八木）



# 新潟の水辺99選をやることにしました

どうとう  
やるぞあー

前々から、話のでていた新潟の水辺99選をぼちぼち始めることにしました。とりあえず、あまり大げさにしないで、まずは会員とその周辺で集めることにします。なぜ100でなく99か、これは100に飽きたという理由その1と、もしも自分が推薦した水辺が入らなかつたらかわいそうだということで、個人用に1ヶ所残しておいてあげようという事務局の思いやり(?)が理由その2です。

もういくつでもどこでもよいので、事務局にお寄せ下さい。ただし、フォーマットは同封した用紙を基本として、2ヶ所以上の方は、すみませんがご自分でコピーして下さい。締切はとりあえずありません。

フォーマットはB4です。〈名称〉は、なかつたら自分の好きな名前をつけてください。〈地図〉は略図で結構ですが、周辺の目印となるものが入っているとベターです。〈推薦理由〉はあなたからの一言アピールみたいな雰囲気構いません。〈現場の状況〉は、写真もしくはスケッチを添えてお書き下さい。イラスト風でも、何でもよいです。

どんな水辺がでてくるか楽しみです。そういえば、先日ウォッチングで行った仁箇堤や阿賀野川河口もよかったなあ。五十嵐3の町浜も良いし、「阿賀に生きる」の長谷川さん家の前の阿賀野川もいいなあ……。

賞金とかはありませんが、どしどしご応募下さい。  
会員以外のオでも OK です。

インフォメーション (まだありました)

【《人間と環境シンポジウム「自然と健康な暮らしと文明—とくに水問題を巡って》が開かれます】

7月3日(土) 午後2時~5時、新潟市万代市民会館6階ホールにて、上記のシンポジウムがかいさいされます。講演は原田正純氏(熊本大学医学部助教授)、報告は鷺見一夫氏(新潟大学法学部教授)、武本和幸氏(刈羽村村議)、阿達ヤス子(主婦)、参加費は500円、主催は「くらしの相談・にいがた」、全国労働安全衛生センターです。連絡先は(財)新潟県安全衛生センター 025(228)2127 高見さんまで。